

タイトル：『汐製菓会社の新作23
ガム5』

登場人物

- ・ 汐（しお）（30代）…汐製菓会社社長。
奇想天外な菓子商品を次々と発案する快活な性格。

- ・ 塩田（しおだ）（30代）…汐の秘書。真面目で心配性だが、実はお菓子が大好き。汐の発想に振り回されることが多い。

シーン：汐製菓会社の社長室

（舞台は豪華なオフィス。デスクの上にはお菓子のサンプルやメモが散らばっている。汐がデスクに座り、ひらめいたような表情をしている。）

汐「よし、次の新商品だ！塩辛味のガムだ！」

（塩田が書類を持って入ってくる。）

塩田「社長、お疲れ様です。来月のキャンペーンについて打ち合わせを……」

汐（興奮気味に立ち上がる）「塩辛味ガムを作るんだ！」

塩田「（驚きつつも冷静に）塩辛味……ですか？」

汐「そうだ！塩辛は日本の伝統的な味だ。これをガムにしたら、世界中の人々がびっくりするに違いない！」

塩田「（心配そうに）でも、塩辛って……ちょっと特殊すぎませんか？消費者に受け入れられるかどうか……」

汐「塩辛こそが、ユニークさの証だ！新しい挑戦が必要なんだよ！」

塩田「（ため息をつく）わかりました、社長。でも、試作には時間がかかるかもしれません。」

汐「全力で頼む！新しい挑戦には時間がかかるもんだ！」

シーン②：研究開発室

（研究室は活気にあふれ、白衣を着た研究員たちが忙しく動き回っている。塩田が試作品の準備を指示している。）

研究員A「塩田さん、塩辛味のガム……一体どんな風に作ればいいんですか？」

塩田「（考え込む）とりあえず、塩辛のエキスを使って……」

研究員B「（心配そうに）本当にこれで大丈夫なんでしょうか？」

塩田「（頷きながら）社長が決めたことです。最善を尽くしましょう！」

（研究員たちが試作品を作り始める。試作が完成する。）

研究員C「できました、塩田さん。塩辛味のガムです。」

塩田「（緊張しながら）では、試食を……」

（塩田と研究員たちがガムを試食する。リアクションは微妙。）

研究員A「……うーん、確かに塩辛味だ。」

研究員B「ただ、ガムとしての味わいが……」

研究員C「……結構クセになるかも？」

塩田「（悩む）社長に報告しなければ……」

シーン③ 汐製菓会社の社長室

（塩田がガムの試作品を持って戻ってくる。）

汐「どうだ、塩田！塩辛味ガムは成功か？」

塩田「（慎重に）ええ、味は確かに塩辛です。

ただ、消費者の反応が心配で……」

汐「心配するな！新しいものは挑戦だ！さ

あ、試してみよう！」

（汐がガムを試食する。）

汐「……うむ、これは素晴らしい！世界が驚く新しい味だ！」

塩田「（微笑みながらも心配）社長がそう言うなら……」

汐「次は市場テストだ！社員に配って反応を見よう！」

シーン④ 社内テスト

（社員たちがガムを受け取り、恐る恐る試食する。）

社員A「……うわ、これは……」

社員B「かなり独特な味だな……でも、不思議とクセになるかも？」

社員C「友達に試させてみよう。これがどう受け取られるか見てみたい！」

社員D「（ガムを噛みながら）これ、なんかお酒が欲しくなる味だな……」

社員E「確かに！ビールと一緒に食べたくなるわ！」

社員F「これをつまみにして、ちよつと一杯やりたい気分だ！」

シーン5: 商品発表会

(豪華な会場で、新商品発表会が行われる。
各国のメディアやバイヤーが集まっている。)

司会者「皆様、お待たせいたしました！本日、汐製菓会社から驚愕の新商品が発表されます！その名も『塩辛味ガム』！」

(観客たちがざわつく。)

バイヤーA「塩辛味のガム?!これは一体……」

メディアB「塩辛味?それは挑戦的な……」

(汐がステージに登場する。)

汐「皆さん、こんにちは！私は汐製菓の汐です。今回は、日本の伝統的な味をガムで再現しました！塩辛の味です！」

(観客たちが驚きの声を上げる。)

汐「どうぞ、皆さんお試しください！」

（観客たちにガムが配られ、試食が始まる。）

シーンの：海外での反応

（場面が海外の街角に切り替わる。観光地やショッピングモールなど、様々な場所で外国人たちが塩辛味ガムを試食している。）

ロンドンの街角

外国人A（イギリス人男性）「（日本語で）塩辛味のガム？なんだこれは……？」

外国人B（イギリス人女性）「（日本語で）最初はびっくりしたけど、意外とクセになるかも？」

外国人C（イギリス人男性）「（日本語で）確かに塩辛の味がするけど……面白いな！」

ニューヨークの公園

外国人ロ(アメリカ人男性)「(日本語で)これ、完全に塩辛の味がする！でも、なんだか癖になるな……」

外国人㊦(アメリカ人女性)「(日本語で)ユークで、話題性は抜群！友達にも試させよう！」

外国人㊧(アメリカ人男性)「(日本語で)まさかガムで塩辛の味を体験できるとは……」

パリのカフェ

外国人㊨(フランス人男性)「(日本語で)フランスの料理とは全然違うけど、これはこれで面白い！」

外国人エ(フランス人女性)「(日本語で)ガムに塩辛の味がするなんて、まさにアート！」

外国人①(フランス人男性)「(日本語で)次の日本旅行の土産リストに加えておこう！」

シーン7: 日本国内での反応

(場面が再び日本に戻り、国内のスーパーやコンビニで塩辛味ガムが売れている様子が映し出される。)

消費者②(日本人男性)「うわ、これ本当に塩辛の味だ！面白い！」

消費者④(日本人女性)「ちょっと変わってるけど、クセになる！」

消費者⑤(日本人男性)「外国人観光客にぴったりだな。土産としても喜ばれそう！」

消費者ロ（日本人男性）「（ガムを噛みながら）これ、なんかお酒が欲しくなる味だな……」

消費者㊦（日本人女性）「確かに！ビールと一緒に食べたくなるわ！」

消費者㊧（日本人男性）「これをつまみにして、ちよつと一杯やりたい気分だ！」

シーン⑧ 汐製菓会社の社長室

（汐と塩田がデスクに座り、各国からの好評な反応について話している。）

汐「見たか、塩田！塩辛味ガムが世界中で話題になってる！」

塩田「（安心した様子で）はい、思った以上に成功していますね。」

汐「冒険は素晴らしい！次もまた、何か驚く
ようなアイデアが必要だな！」

塩田「（微笑んで）社長の発想力にはいつも
感心させられます。次もまた、新しい挑戦を
楽しみにしています。」

汐「よし、次のアイデアが閃いた！『焼き魚味
ガム』だ！」

塩田「（驚愕しつつも笑顔で）社長、それも
……やってみましょう！」

（舞台が完全に暗転する。）

終わり